

特集1

人材確保、経営強化、販路開拓……
中小企業はもっと強くなる

身の丈ITで 生き残れ！

深刻な人手不足や経営強化に悩まされている中小企業だが、解決策の一つとして大きな注目を集めているのが、IoT、AI（人工知能）、ロボット、クラウドなどのIT技術だ。ここ数年、中小企業へのIT導入が叫ばれているが、まだまだ進んでいないのが現状だ。そこで、ITを導入して大きな成果を上げている企業の現場を取材した。

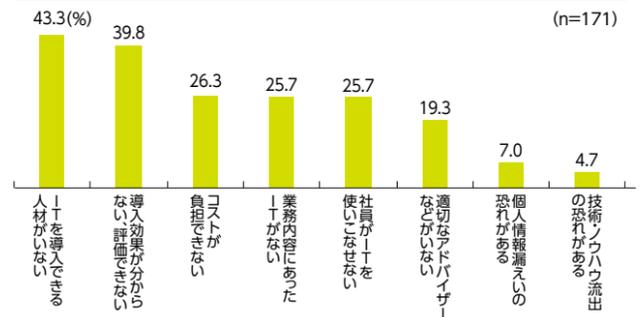


IT導入成功の鍵は 経営者のビジョンの中にある

井領 明広 つづく株式会社 代表

いりょう・あきひろ
1991年生まれ。早稲田大学 商学部卒。広島県出身。NTTデータイントラマート、free株式会社を経て、現在は長野県の企業が「100年つづく」を当たり前にするために、経営のテクノロジー化・デジタル化支援を行う、「つづく株式会社」を運営。長野県を中心に製造業、農業など多様な中小企業のバックオフィスの「自動化」を実現する

(図1) IT投資を行わない理由 (n=171)



出典：中小企業庁「中小企業・小規模事業者のIT利用の状況及び課題について」

国はIT導入補助金などを整備して中小企業のIT化を支援しているが、導入をためらう企業側は「ITを導入できる人材がない」「導入効果が分からない、評価できない」「コストが負担できない」といった「できない理由」(図1)を挙げている。中小企業にとってIT導入のハードルは本当に高いのか。長野県上田市と御代田町に拠点を置き、県内の中小企業に特化してクラウドサービスの導入を支援する「つづく」代表の井領明広さんに、成功するIT導入の考え方を聞いた。

企業とITをつなぐ存在として長野で起業

「つづく」という印象に残る社名には、井領明広さんの「中小企業の商売が100年続くことが当たり前前の未来を創りたい」という願いが込められている。

井領さんは子どもの頃から中小企業に興味を持ち、大学では迷わず経営学を学び、就職先はITの導入支援を通じて多くの経営者と出会えるNTTデータイントラマートを選んだ。だがその時、世の中は億単位のIT投資と同じ効果を得るクラウドの時代を迎えていた。

いよいよ中小企業の時代が来る——井領さんは、クラウド会計ソフトのfree（フリー）に転職した。クラウドの可能性に改めて驚かされる一方で、中小企業の課題は会計ソフトだけでは解決しないことに気付く。「課題はさまざまですが、本質は人に関する悩みであり、ITによって解決できる可能性があった。それなのに中小企業とITをつなぐ存在がいなかったのです。そこで妻の実家がある長野県御代田町で2018年に起業しました」。首都圏外の長野でIT導入の成功モデルをつくることができれば、「それを各地方都

市にコピー&ペーストすることで、全国の中小企業を活性化させることができる」と井領さんは考えた。起業してすぐに顧客が見ついた。

その一社が同県富士見町で70年続く両国屋豆腐店だった。三代目の石垣貴裕さんの課題は「黒いモヤモヤを晴らすこと」だったという。

豆腐店の朝は早い。5時から仕込みに入り9時開店、18時閉店。15時から18時にかけて事務作業に没頭し、最終的に片付けなどを含めて仕事から上られるのは19時か20時ごろ。黒いモヤモヤは、事務作業に追われる日々の繰り返しで、経営者としてやりたいことがやれないことへの焦りが原因だった。

黒いモヤモヤを抱えたまま石垣さんは、井領さんの「ITを使ったら業務効率化」セミナーに参加し、「会計ソフトの『フリー』を使いたい」という相談を持ちかけた。井領さんは、石垣さんの話を聞くうちにフリーだけで解決するのかわという疑問を抱き、実際に店を訪問して驚いた。すべての管理が紙ベースで行われていたからだ。図2を見ていただきたい。電話やFAXを通じての注文の内容はボードに貼ったメモで管理。石垣さんは店を閉めた後、電卓で集計して、製造計画を立てていた。レジの売上金の集計は会計ソフトへ手打ちし